

飯岡秀夫先生定年退職にあたって

学長 石 井 学

飯岡先生は慶応義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学後1970年本学助手として着任、専任講師、助教授を経て1982年教授に昇進されました。

1970年は安保闘争で日本全国に大学紛争の嵐が吹き荒れていました。本学は紛争の先陣をきっていたため、やや落ち着きを取り戻していましたが、未だ不安定の時期に先生をお迎えした記憶があります。以来35年の歳月が流れ大変残念なことですが、定年で先生をお送りすることになりました。

先生は常に真摯な態度で、研究業績にもありますようにウェーバーとマルクス問題から、ルソー、そしてラスキンへと発展し、社会思想、経済思想、環境思想と幅広い研究に取り組んで来られました。学会活動では経済史学会、社会思想史学会、社会政策学会、経済社会学会、日本経済思想史学会、日本ホスピタリティ・マネジメント学会に所属し、それぞれの学会での活躍は広く知られています。なかでも、日本ホスピタリティ・マネジメント学会では学会誌担当理事として、また、学会の理論的支柱として中心的存在となっています。

大学行政面では、経済学部経済学科長、公報委員長、評議員、経済学部長、附属図書館長と主要管理職を歴任され、大学発展に多大な貢献をなされました。

本学就任以来35年間の教育、研究、大学行政、地域貢献に尽くされた功績に対して深く感謝の意を表する次第です。定年退職後も特任教授として学生の指導に当たっていただけたことになっていますが、今後の研究テーマとされている「ホスピタリティ経済学」の確立も期待申し上げます。

おわりに、私事になりますが、着任以来の変わらぬ友情と、大学行政に対しての御支援、御教授に心より御礼申し上げます。今後共御健勝にて御活躍を祈念いたします。

長い間ありがとうございました。